



とちぎ学生 アイデアピッチバトル

チーム「思い出保存ラボ」

make memory～思い出のもののや空間を3Dで 保存・再現する新しい記録の形

令和7年12月20日(土)に栃木総合文化センターで開催された大学コンソーシアムとちぎ主催の「とちぎ学生アイデアピッチバトル」で、**建築施工システム技術科2年の三原香凛さん、大宮諒真さん**のチーム「思い出保存ラボ」の「make memory～思い出のもののや空間を3Dで保存・再現する新しい記録の形」が、みごと**第1位**に輝きました。

下野新聞掲載記事

県内学生がアイデア競う

関東能開大 初代1位

大学コンソーシアムとちぎ（理事長・池田幸宇都宮大学長）が主催する「とちぎ学生アイデアピッチバトル」が20日、宇都宮市内で初めて開かれ、関東職業能力開発大学校のチーム「思い出保存ラボ」が1位に輝いた。

同コンソーシアムはこれまで、研究成果に重点を置き、「学生&企業研究発表会」を開催してきた。今回は学生のアイデアや発想を重視し、発信と社会実装に挑戦してもらう場へと衣替えした。

ピッチには予選を勝ち上がった9チームが出場。第1ラウンドは3グループに分かれて競い、各チームが持ち時間100秒の中でアイデアを披露した。決勝戦は、第1ラウンドを勝ち上がった3チームが競った。

1位の関東職業能力開発

三つのデータで 思い出保存提案

大学校チームは、三つの測定データによる「3D点群データ」を活用し、思い出の品や空間を保存・再現する「make memory」を提案した。

2位は帝京大理工学部「カピバラさん」の「AIで栃木のコメを守る一斑点カメムシの早期発見システム」、3位は白鷺大経営学部「アユーズ」の「ボードゲームからリアル釣り体験へ」だった。（伊藤一之）



3D点群データを活用した保存・再生法を提案する関東職業能力開発大学校チーム＝20日午後、宇都宮市